

心を観じ、つつみ、おさめる営み——『現代瞑想論』からの考察

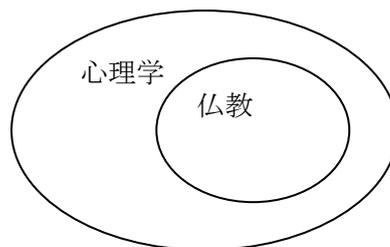
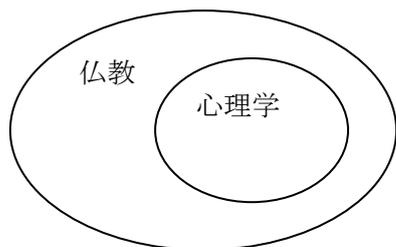
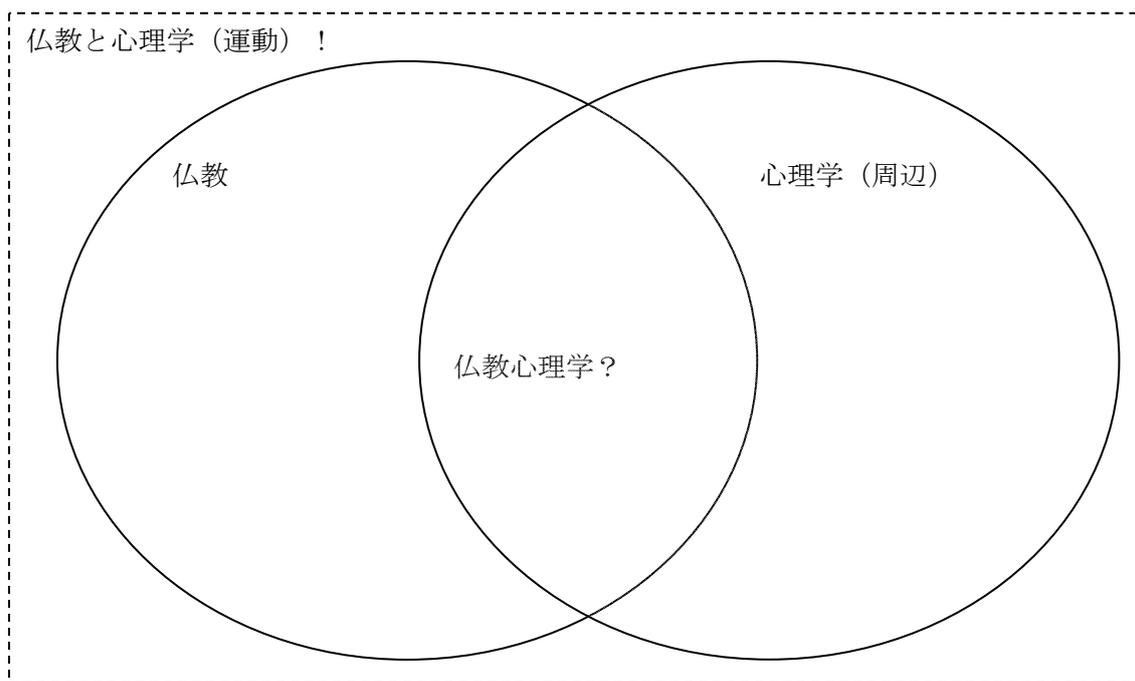
葛西賢太（宗教情報センター研究員）

きっかけ 瞑想の範囲を広げ、鳥瞰する

- ・ 自分の瞑想歴 宗教学の経験 心直しへの関心 宗教心理学
- ・ 宗教学でよくいう「瞑想の研究」⇒概念を広げる必要
- ・ AA という団体の研究 ⇒『断酒が作り出す共同性』 酒と薬物と意識
- ・ 介護をする人たち わかってもらえない苦しみを持つ人々
- ・ 神通、共感、傾聴のちから rapport 瞑想者本人以外にとっての瞑想の意義

仏教「と」心理学

- ・ 仏教を実践する人と、心理学（周辺）を実践する人との出会い



……こんな考え方もあります……

瞑想の迷走、名僧の瞑想

- ・ 瞑想は流行しているか
- ・ 迷走する瞑想
- ・ 瞑想自体の危険さ 瞑想への依存
- ・ 瞑想の活用 ZHP 福祉分野での応用

変性意識論

- ・ 通常意識の見直し
- ・ 変性意識諸状態の範囲を、うんと広くとるべきだ！
- ・ 笑い 通訳 入浴 抱擁……これらと瞑想

シャーマニズム研究からの考察

- ・ カミダーリイ（神崇り）の意味
- ・ シャーマンや霊媒の意識は、私たちの日常意識とどれぐらい隔たっているのか？
- ・ シャーマンや霊媒は、異常心理、精神病理を抱えているのか？
- ・ 変性意識状態 Altered States of Consciousness あるいはシャーマンの意識状態 Shamanic States of Consciousness という議論と、その行き詰まり
- ・ セッション中に電話に出るシャーマン 達人の意識
- ・ 変性意識諸状態の範囲を、うんと広くとるべきだ！ 笑い
- ・

現代と瞑想、瞑想の今、^{わたしたち}瞑想する現代人

- ・ AA という団体の研究 ⇒『断酒が作り出す共同性』 酒と薬物と意識 ソーマ、リグ・ヴェーダ 9
- ・ 介護をする人たち わかってももらえない苦しみを持つ人々
- ・ 神通、共感、傾聴のちから rapport 瞑想者本人以外にとっての瞑想の意義
- ・ 瞑想によって可能にされるもの
 - 心を感じる……現状把握
 - 心を包む……安心して自分を見つめられる環境を確保
 - 心をおさめる……混乱を整え、力を発揮

執筆の体験

- ・ 5年ほど前に春秋社に企画を相談
- ・ 書けなくて苦しんでいた時期⇒瞑想して図を書く
- ・ 事実確認の手間 ストレス図式
- ・ コラムと扉引用

資料編

【資料編の引用部分は省略】

参考文献

安藤泰至「越境するスピリチュアリティ——諸領域におけるその理解の開けへ向けて」『宗教研究』『宗教研究』80(2)、293-312頁、2006年(「生命・死・医療」特集)。

葛西賢太「WHOが"spirituality"概念の標準化を求めた経緯について」『国際宗教研究所ニュースレター』38号、2003.4.25。(<http://www.circam.jp/activities/download/02.html>)

葛西賢太「「スピリチュアリティ」を使う人々——用語の定義と標準化の試みを巡って」湯浅泰雄編『スピリチュアリティの現在』人文書院、2003年。

葛西賢太「アルコール依存症からの脱出」『中外日報』2009年11月5日。

葛西賢太「オックスフォードグループ運動における<心直し>の実践とその意義」『宗教研究』361号、97-120頁、2009年(『宗教と倫理』特集)。

葛西賢太「文化資源としての語り」『キリスト教と文化』6, 関東学院大学キリスト教と文化研究所、2009年。(<http://www.circam.jp/activities/download/02.html>)

葛西賢太『現代瞑想論——変性意識がひらく世界』春秋社、2010年。

葛西賢太『断酒が作り出す共同性——アルコール依存からの回復を信じる人々』世界思想社、2007年。